

風土記の丘の花だより⁷⁰

今、そしてこれから見られる植物(2021年1月24日)

大寒もすぎ、来週は節分、そろそろ春の兆しが見えてくる頃ですが、まだまだ寒いですね。大池のカモのほか、小さな野鳥もよく見られます。メジロやヒヨドリはみなさんよくご存知ですね。まだエナガ、イカル、ジョウビタキ、アオジ、シロハラなど散歩の途中でいろんな小鳥に出会えるのが楽しみな季節です。



コオニタビラコ(ほとけのざ)

春の七草に「ほとけのざ」と呼ばれる草があります。本当の名前はコオニタビラコです。田んぼには普通に生えますが、道端ではほとんど見かけないので余り知られていません。さらにシソ科のホトケノザと間違われることも多いですね。写真にはまだ花はありませんが、春になると黄色くて小さな花が咲きます。これは古代米の田んぼの畦で撮影した小さな株です。



ふきのとう

春の兆しと言えば「ふきのとう」を連想する人も多いのではないのでしょうか。旧小早川家の庭で顔を出しています。ふきのとうはキク科のフキのつぼみのことです。雌花は長く茎を伸ばしてたくさんの綿毛をつけます。去年は、この花だよりで紹介すると全部採られてしまって、悲しい思いをされた方もおられました。今年はみんなで観賞できればいいですね。



サンゴジュの葉痕

真ん中に目を細めて笑っているような顔が見えますね。(そんなに見えませんか・・・) 68号でカラスザンショウの葉痕(ようこん)を紹介しましたが、これはサンゴジュの葉痕です。あなたは何の顔に見えますか? サンゴジュは赤い実がなる常緑の木で、園路沿いにもたくさん植えられています。



久しぶりにシダを紹介します。シダらしくないシダのカニクサです。名前も「なんとかシダ」ではなく、つる草のように木や金網に絡みつくのでシダとは思えない草です。でもシダなのでいつまで待っても花は咲きません。胞子がつく葉はもっと細かく縮れたようになっていて、同じ植物とは思えません。茎がカニのように這っていくのでカニクサだそうです。 松下

風土記の丘の花だより⁷¹

今、そしてこれから見られる植物(2021年1月31日)

早いもので、もう1月もおわりです。園内では白梅も紅梅もよく咲いています。

「梅一輪一輪ほどの暖かさ」とは服部嵐雪(はっとりらんせつ)の俳句ですね。ちょうど今頃の季節の様子でしょうか。



メリケンカルカヤ

冬枯れのままで春を待つ草があります。メリケンカルカヤです。株のまま束になって、独特の姿で寒い風の中に立っています。でもよく見ると根元にはもう緑色の葉も出てきています。夏は他の雑草に紛れて目立たない草ですが、冬には写真のように存在感を主張していますよ。何気ない地味な草ですが、目にとまったら眺めてやってください。



サカキの冬芽

サカキは漢字で木偏に神と書き、宗教行事でよく用いられるなじみ深い木です。その冬芽が特徴的です。赤っぽくて先が鉤(かぎ)のように曲がっています。春になるとここが展開して若葉を出します。サカキは万葉植物園にも植えられていますが、山の中にも自生の株があります。ビシャコとよばれるヒサカキと名前こそ似ていますが、姿かたちは全く似ていません。



アセビ

万葉植物園西側の通路沿いでアセビの花が咲き始めました。去年の花だよりによると、2月中頃が花盛りと書いてありました。見頃までにはあと少しかかりそうです。私は不勉強のため、こまかい品種まではわかりませんが、株ごとに葉の色合いや形に少しずつ違いがあるので、ここには何品種か植えられていると思います。それで開花期も少しずつ違うのでしょう。



このシダはヒトツバです。これもシダらしくない姿ですね。ある所にはいくらかでも生えているのに、風土記の丘ではこの一株しか見たことがありません。西のトイレとから将軍塚に向かう道沿いで撮影しました。ほかに生えていたら教えてください。名前のおり葉が一枚なのでヒトツバです。葉の裏にはびっしりと一面に孢子囊(のう)が付きます。 松下

風土記の丘の花だより⁷²

今、そしてこれから見られる植物(2021年2月7日)

今年は2月3日が立春、暦の上ではもう春とはいえ、やっぱり寒いです。ヤブツバキノ赤い花が目につくようになってきました。そしてハクモクレンのつぼみがふくらんできたのが見上げるだけで分かるようになりました。



コウヤボウキ

コウヤボウキの綿毛がきれいです。高野山ではこの枝で箒(ほうき)を作ったことから名付けられたことは前にも紹介したと思います。花もきれいです。綿毛も風情があってなかなかステキです。こんな姿を見ると、タンポポと同じキク科の植物なんだなあと思いますね。万葉植物園はもちろん、園路沿いの林床にたくさん生えています。



ミツマタのつぼみ

ミツマタのつぼみが膨らんできています。咲くまであと一月余りでしょうが、つぼみもかわいいですね。古い呼び名は「さきくさ」です。漢字では「三枝」と書きます。1本の枝が3つに分かれながら成長することから名付けられました。コウゾ、ガンピとならび和紙の原料としてもよく知られています。



キツタの実

風土記の丘では、木に巻き付いているツタは2種類あります。一つは「まあつをいろどる かええでやあつたは・・・」と唱歌にもうたわれているブドウ科のツタです。歌詞のようにツタは秋に紅葉し冬には落葉します。でも、写真のキツタは、冬でも緑色で(常緑)、この季節には黒っぽい実を付けています。同じツタでもずいぶん違うものですね。



グリハラン

通常の園路からは外れますが、金龍大神の近くでこんなシダを見つけました。クリハランです。名前のようにクリの葉に似ているのでこの名前が付いています。この方が少し大きめですが、姿は確かによく似ています。このシダも名前にシダと付かない上に、ランと付くので、シダとは思われにくいようです。でも、葉の裏には円いソーラス(胞子嚢・ほうしろう)が付いているのでシダと分かります。 松下

風土記の丘の花だより⁷³

今、そしてこれから見られる植物(2021年2月14日)

2月10日、ウグイスの初鳴きを聞きました。13日には越冬から覚めたテングチヨウも見ました。春が来たことを実感します。これから暖かくなったり、寒くなったり



りをくり返し、本格的な春になっていくのでしょうか。今、ウメが満開です。まさに今が見頃、眺めるもヨシ、撮影するもヨシです。万葉植物園の白梅は萼が紫色のよく見かける普通のウメですが、少し西へ行った梅園の白梅は萼が緑色のリョクガクという品種です。紅梅とのコントラストがなんとも言えずきれいです。



早春の花といえばこのオオイヌノフグリでしょう。日だまりで青い花がよく目立ちます。これからだんだん花の数が増し、一面に咲くと見事です。この花をイヌノフグリという人がおられますが、この両者は名前こそ似ているものの、別種で花はかなり違います。でも残念なことに風土記の丘でイヌノフグリは見かけません。かわりに花木園ではとても小さな花ですが、同じ仲間のフラサバソウが咲いています。(地味な花ですが・・・。)



堅穴住居から西を眺めると大きなケヤキが見えます。今は葉を落としているので樹形がよく分かります。ケヤキはほうき型樹形とも呼ばれる独特な樹形を作ります。ほうきを逆さまに立てたような形ですね。この写真は一本ではなく4本が重なったものです。それでも全体できれいなほうき型樹形になっています。



最後はシダです。ホラシノブといいます。葉が細かく切れ込んでいる30cmほどのシダです。この季節は紅葉しているものもあります。よく似ているものにタチシノブがありますが、それは葉の先がとがっていますが、これは葉の先が広がっていることで簡単に区別できます。

松下

風土記の丘の花だより⁷⁴

今、そしてこれから見られる植物(2021年2月21日)

先日の「寒の戻り」はこたえましたね。でも季節は着実に春にむかっているようです。暖かい日の日だまりにはたくさんの花が咲いています。ただ歩くだけでなく、たまには立ち止まって、しゃがみ込んでそんな小さな花と会話してみてください。



前回73号で名前だけ紹介したフラサバソウの淡い水色の小さな花を見つけてみましょう。場所は、ハクモクレンやコブシの咲く広場の西側の入り口から下りて、右側です。シイノキの周辺を探してください。たくさん咲いていますよ。変わった名前ですね。2人の外国の植物学者の名前を合わせて名付けたそうです。フラなんとかさんと、サヴァなんとかさんです。面白いですね。



ハコベの白い花もたくさん咲いています。写真はコハコベという種類です。茎が紫色を帯びることが多いです。花びらが10枚あるように見えますが、V字型の花びらが5枚です。春の七草の「はこべら」がこれです。目をこらして見ると。真ん中の雌しべの先が3つに分かれているのがわかります。



この細長い葉っぱのかたまりみたいなもの、何かおわかりですか？秋になると誰でも知っている花が咲くのですが……。ヒガンバナです。秋に花が咲いたあとは見向きもされませんが、春から夏にかけてはこんな姿で一生懸命に光合成をして養分を蓄えてから、枯れてしまいます。庭のスイセンの葉のようですが、葉の真ん中に白っぽいスジが入っているのが特徴です。園内の至る所で見られます。



最後はいつもどおりシダです。これはパッと見てシダとわかりますね。名前はオオカナワラビ。ワラビと付きますがワラビの仲間ではありません。シダには「なんとかワラビ」という名前がたくさんあります。このシダはそんなにたくさんありませんが、「金蕨」の名前のように硬くてゴワゴワしています。 松下

風土記の丘の花だより⁷⁵

今、そしてこれから見られる植物 (2021年2月28日)

もうすぐ3月だというのに、春になったり冬に戻ったり、今年は気温の変化が極端です。野の草木も気をもんでいることでしょう。



ジンチョウゲ

谷山家や谷村家などでジンチョウゲの花が咲いています。万葉植物園で咲き始めたミツマタと同じジンチョウゲ科の木です。色こそ違いますが、観察すると花のつくりはよく似ていますね。花びらのように見えているのは萼です。日本に昔からある庭木のように思いますが、室町時代に中国からもたらされたと言われています。



カンヒザクラ

新池の横の広場でカンヒザクラがきれいに咲いています。元は台湾などの暖かい地方が原産のサクラですが、関東以南の各地によく植えられています。花がパッと開かず、半開きでうつむき加減に咲きます。それより何より色が濃い紅色なので遠くからでもよく目立ちます。



サンシュユ

修復古墳の北側でサンシュユが黄色い花を咲かせています。ヤドリギを目印に下りていってください。別名を「はるこがねばな」というだけあって、黄色が殊のほか鮮やかです。この木も中国原産の木で、江戸時代に日本にもたらされました。花の少ない早春にとってもよく目立つ花です。



ゲンゲ

同じ所にゲンゲが咲き始めています。普通は「れんげそう」とか「れんげ」とか呼ばれます。みんなそう呼ぶのに、正式にはゲンゲなんですね。もう、レンゲでいいと思いますが、そうもいかないのでしょうか。この花が咲くと春ですね。風土記の丘にれんげ畑があるのをご存じない方も多いようです。ここに一面に咲くとなかなかきれいですよ。



ヒイラギナンテン

谷山家の庭や、柳川家の南の山裾にヒイラギナンテンの黄色い花が咲いています。ヒイラギなのかナンテンなのか分からない名前ですが、ナンテンの仲間、メギ科の木です。葉がトゲトゲでヒイラギに似ているのでこんな名前が付いたのです。これも中国原産の木だそうです。秋にはブルーベリーみたいな実を付けます。今回は5種類の花を紹介した

ので、写真が小さくなり見づらくなって申し訳ありませんでした。

松下

風土記の丘の花だより⁷⁶

今、そしてこれから見られる植物(2021年3月7日)

3月です。啓蟄も過ぎました。春が来たような気になります。でもまだまだ寒い日もあるでしょう。オオシマザクラのつぼみが大きくなってきています。樹勢が衰えているので気になっていましたが、今年も咲いてくれそうです。



万葉植物園を過ぎたあたりの左の側溝沿いにミミナグサが咲き始めました。写真だけでは分かりづらいですが、本物を見てもやっぱり分かりづらいです。でも、この草は余り見かけない、どちらかというところ珍しい草なので紹介します。外来のオランダミミナグサと比べると、その特徴がよく分かります。名札を立てていませんので、見てやってください。



花木園でハクモクレンが咲き始めました。青空に白い花が映えます。まだまだ満開とはいきませんが、開花の期間が短いので、散る前に忘れずに眺めてください。ここには、この木とコブシの木が植えられています。どちらの花も白くてよく似ているので混同されてしまいがちです。



園内を歩いていると、どこからともなく独特な香りが漂ってきます。それは咲き始めたヒサカキの花の香りかもしれません。お墓参りを思い出すような香りですね。先に咲き始めるのが写真の雄花で、中を覗くと雄しべがいっぱい見えます。後で雌花が咲き始めます。雌花には当たり前ですが雄しべはなく、雌しべがあります。両方比べると違いがよく分かります。



谷村家の庭の南西隅のツゲに花が咲いています。花といっても地味なものです。万葉植物園のツゲは元気ありませんが、ここのツゲは元気もりもりです。庭木にして丸や四角に刈り込むツゲの多くはイヌツゲで、このツゲは「本ツゲ」と呼ばれることもあります。また、街中の歩道沿いや植え込みなどにはボックスウッドというツゲもよく植えられています。

さあ、春です。花が増えてくるので忙しくなりそうです。

松下

風土記の丘の花だより⁷⁷

今、そしてこれから見られる植物(2021年3月14日)

ヤマザクラの花が少しずつ咲いてきました。それに先だってエドヒガンの花がほぼ満開になっています。これからサクラをはじめいろいろな花が咲き出して、風土記の丘は日に日に華やかになっていきます。



エドヒガン



エドヒガンの花



エドヒガンが前山23号墳の西側の谷を隔てた山で咲いています。旧小早川家住宅から急な坂を登り、くねくねと曲がる道がまっすぐになる辺りで、右の山を眺めてください。手前の木に隠れて見にくいですが薄いピンク色の花が見えます。場所は離れますが、金龍大神の入り口にも大きな木が2本あって、それもきれいに咲いています。花の付け根(萼筒・がくとう)が丸くふくらんでいるのが特徴です。花が落ちていたら確かめてください。エドヒガンはソメイヨシノの親にあたるサクラです。もう片方の親はオオシマザクラです。オオシマザクラは桜餅の葉に使うサクラで知られています。風土記の丘にはカンヒザクラの間に1本だけ植えられています。ソメイヨシノの両親を見ることができますね。

ケタガネソウの花があちらこちらでたくさん咲いています。「たがね」は石などを割る道具ですが、葉の形がそれに似ているのでタガネソウ、さらに毛が生えているのでケタガネソウと名付けられました。カヤツリグサ科の植物にしては、葉の幅が広いので、何の仲間の草だろうと思います。また、この季節は枯れた葉がたくさん付いているので、ますますわかりにくい草です。

カンサイタンポポが本格的に咲き出しました。このタンポポは昔から日本に生えている在来種で、花の下に反り返ったペロペロ(難しい言葉で総苞片)がありません。もうすぐ外来種のセイヨウタンポポも咲き出しますから、比べてみるとよく分かります。

この「花だより」も、おかげさまでもう77号になりました。

ご愛読に感謝申し上げます。

松下

風土記の丘の花だより⁷⁸



今、そしてこれから見られる植物 (2021年3月21日)

3月17日にソメイヨシノの花が咲きました。風土記の丘の**開花宣言**をいたしました。

カンヒザクラは散り果てましたが、オオシマザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノ、ヤマザクラとたくさんのサクラが咲いています。ほかにもたくさんの花が咲き出しました。どんどん紹介した



アケビ



オオシマザクラ



コスミレ

と思います。アケビはフェンスや木に巻き付いています。オオシマザクラはカンヒザクラが咲いていた近く、コスミレは日当たりの良い所ならどこにでも咲いています。



シャガ



スモモ



テンダイウヤク

シャガは資料館東の坂道、スモモは万葉植物園、テンダイウヤクは修復古墳の東側に咲いていますが、小さい花なので目立ちません。



ムラサキサギゴケ



ノジスミレ



コブシ

ムラサキサギゴケは安藤塚に、ノジスレもコスミレと同じような所に、コブシはハクモクレンがきれいに咲いていた所に咲いています。コブシの花の下には緑の葉っぱが一枚付いていますから、ハクモクレンと間違えることはありません。今回は花の種類が多く、説明文が書けませんでした、名前だけでも覚えてください。花はまだまだたくさん咲いていますよ。眺めながらゆっくり歩いてください。 松下

風土記の丘の花だより⁷⁹

今、そしてこれから見られる植物(2021年3月28日)

ソメイヨシノが咲き誇り、風土記の丘はサクラ一色になりました。いよいよ春本番です。サクラもいいですが、足元に目をむけていただき、今回はスミレ三昧(ごんまい)ということにさせていただきます。一口にスミレといってもたくさんの種類がありますよ。



まずはタチツボスミレです。ハート型の葉が特徴です。花はすみれ色というより、水色に近いです。散歩しながら道の横の斜面を見るとたくさんはえています。小学校の国語の教科書の「三年とうげ」に登場したので、子供たちも名前はよく知っていると思います。もう、忘れたかな？



これはニオイタチツボスミレです。葉は同じハート型ですが、花の色が少し濃いめです。それに花の真ん中の白い部分が際立っています。図鑑などには「良い香りがする」とありますが、私の鼻ではそのほのかな香りはあまりわかりません。一度かいで確かめてみてください。このスミレも同じようなところに生えています。



これはナガバノタチツボスミレです。名前も長いですが、葉も長めです。それにあまり艶がありません。スミレの分類は難しく、図鑑などには「側弁基部に毛がある」とか、「花柄に毛がない」とか、難しいことをたくさん書かれていて、読んでも何のことか分からないことがよくあります。間違ってもいいですから、全体の雰囲気では「はは～ん、これが〇〇スミレか」と自分で悦に入ってください。難しいことはさておいて、まず、楽しんでください。



左の白いスミレはアリアケスミレです。修復古墳の西斜面に多いです。下の同じく白いスミレはフモトスミレです。花がとても小さく、葉に斑が入っているので間違えることはありません。まだほかにもシハイスミレやコスミレなどがありますが、今回はこの辺で終わります。スミレ以外の花もいっぱい咲いています。楽しみながら散歩してください。今年はサクラの開花が早いので、そろそろカスミザクラが咲くかもしれませんね。 松下

